

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「いのちに出会う秋」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

今夏の豪雨、台風、地震などの自然災害によって不安な生活をされている方々、支援活動をされている方々の安全が守られますようにお祈りいたします。

職責上、研修やセミナーなどで様々な現場を訪問し、新しい気付きや学びの機会が与えられていることを感謝しています。先日も長野での人権セミナーで様々なことを学び、体験し、考えさせられました。

ある施設の玄関で靴を脱いで中に入ろうとすると、一人の青年が立ちはだかり、私の顔や体をペタペタと手で触れて確かめ、最後には頭を引き寄せておでこをくっつけ、歓迎のご挨拶をしてくださいました。そして、ひとりひとりの命の尊厳に丁寧に寄り添った知的障がい者支援の働きについてお話をお聞きしながら、相模原の事件も話題にされ、誰がどうその人の命の価値を判断できるのでしょうかと問いかけられました。少しユニークな挨拶をしてくださった青年は、言葉ではなく、身体的な感覚でコミュニケーションをとってくれましたが、あなたは私に壁を作っている人ですか?その壁を壊しに来たのですか?見て見ぬふりをする人ですか?と語りかけるような、自分自身が試されているような挨拶でした。そんな感覚を後から思い起こしましたが、決して怪しい者じゃないですよと手を握り返し、「こんにちは、お邪魔しますね」と、その時はとっさにあいさつをしたのでした。

今回のセミナーはもりだくさんでしたが、沖縄出身長野在住のハンセン病回復者の方の、療養所に入所した日に教会の牧師が、恐怖心におののいていた自分を抱きしめてくれたお話を聞き、松代の地下壕を掘るための時間稼ぎとして捨て石にされた沖縄での地上戦があったことを知り、たくさんの朝鮮半島から強制連行された方々がその地下壕を掘らされていたことを覚え、韓国で元日本軍慰安婦の方の暮らす施設で見た松代という日本語が記された絵のことも思い出していました。新しい学びと出会いや発見の中で、見なかったこと、無関心であったことによって暗闇や隔ての壁を作り出している自分がいるのではないかと考えさせられました。

## □会議・プログラム等予定

(9月25日以降、

および7月25日以降未掲載分)

8月

30日(木) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔中部教区センター〕

9月

4日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔三原〕

8日(土) 横浜教区主教挨拶・就任式〔横浜聖アンデレ主教座聖堂〕

10月

1日(月)～4日(木) 在日韓国出身教役者の集い〔沖縄〕

2日(火) ハラスメント防止・対策担当者打合せ〔管区事務所〕

2日(火) 管区人権問題担当者会〔管区事務所〕

2日(火) 管区共通聖職試験委員会〔管区事務所〕

4日(木) 日韓協働委員会〔管区事務所〕

5日(金) 墓地清掃・逝去者記念礼拝〔青山墓地〕

9日(火)～11日(木) 定期主教会〔長崎〕

16日(火) 常議員会〔管区事務所〕

18日(木) 収益事業委員会〔管区事務所〕

19日(金) 文書保管西日本地区協議会〔中部教区センター〕

24日(水) 原発のない世界を求める国際協議会実行委員会〔管区事務所〕

25日(木)～29日(月) 韓国社会宣教スタディーツアー〔韓国・大田〕

26日(金) 文書保管東日本地区協議会〔ナザレ〕

### <関係諸団体会議・他>

8月24日(金)～31日(金) 世界改革派聖公会国際対話〔カナダ〕

20日(月)～22日(水) 女性の司祭挨拶20周年記念行事準備会〔ナザレ〕

(次頁へ続く)

✦ 10月5日(金)は宣教師逝去者記念礼拝および墓地清掃のため管区事務所通常業務はお休みいたします。よろしくお願いいたします。

その壁を取り除く希望を語るために、暗闇に光をもたらすために、イエスさまの十字架の死と復活があることを改めて思い起こします。イエスさまが生きて働かされている現場で、一人ひとりの多様で大切な「いのち」と出会い、その言葉を聞き、伝えること、希望の光がすべての人々に注がれますようにと祈ることが、和解と平和の希望へと至る道を歩むことなのではないでしょうか。

「あなたは、命に至る道をわたしに示し、御前にいるわたしを喜びで満たしてください。」(使徒言行録2:28)

## Alleluia

### □主事会議

第64(定期)総会期第1回 2018年9月3日  
(月)

< 主な報告・協議 >

1. 主査について担当主事から以下のとおり推薦があり承認した。  
宣教主査：司祭 木村直樹(北関東)、司祭 卓志雄(東京)  
渉外主査：司祭 西原廉太(中部)、八幡眞也(東京)  
広報主査：阪田隆一(横浜)、竹田和子(東京)、吉村登志子(横浜)  
財政主査：尾崎茂雄(横浜)、久保田秀雄(横浜)、中林三平(横浜)、八木達郎(東京)、山中一(中部)、養田博(北関東)
2. 管区事務所国内出張および旅費規程について、宿泊費の上限を1泊8千円から1万円に増額改定することを承認した。
3. NSKKドメインの移管について  
日本聖公会のホームページやメールで利用しているNSKKドメインの管理に関して、東京教区から管区事務所への管理要請があり、これを承認した。  
移管の時期や方法などの詳細については今後詰めていくこととした。
4. インド南部ケララ州で発生した水害に対する緊急支援についてメール稟議を行い、CCAの呼びかけに応じて緊急援助資金から30万円相当のドルの送金(8/28)を追認した。
5. 平和宣教教育活動資金の申請について、

(前頁より)

- 31日(金) NCC 役員会・NCC 宣教会議拡大実行委員会〔早稲田〕
- 9月18日(火) NCC 宣教会議実行委員会〔バプテスト連盟事務所〕
- 20日(木) NCC 委員長会議役員会〔早稲田〕
- 22日(土) 神戸国際大学 50周年記念式典〔神戸〕
- 10月6日(土) 香港聖公会成立20周年記念礼拝〔香港〕
- 10日(水) ~ 12日(金) 日本キリスト教連合会・法人事務・会計研修会〔富士箱根ランド〕
- 11日(木) NCC 常議員会・宣教会議拡大実行委員会〔早稲田〕
- 18日(木) 同宗連教団行政責任者研修〔京都〕
- 29日(月) ~ 11月1日(木) 聖公会東アジア礼拝ネットワーク設立総会〔聖アンデレ教会〕

横浜教区より申請を受けた2名(広島・長崎)に対し、各3万円の補助を承認した。

6. 気候ネットワークより呼びかけられている「自然エネルギー100%宣言・賛同」について、正義と平和委員会や常議員会でも紹介、賛同できないか検討することとした。
7. マイノリティ宣教センター作成の冊子「からふるな仲間たち」について、各教会へ配布することとした。
8. 海外出張について、以下の通り承認した。
  - \* 6/14 - 6/23 スイス / ジュネーヴ WCC 中央委員会 司祭 西原廉太
  - \* 7/30 - 8/2 台湾 東アジア礼拝ネットワーク会議準備会 司祭 市原信太郎
  - \* 8/13 - 18 韓国・ソウル・大田 日韓聖公会青年セミナー2018 司祭 千松清美、司祭 越山哲也、司祭 丁胤植、司祭 李贊熙、司祭 金善姫、執事 松山健作、松村 希
  - \* 8/24 - 31 カナダ・バンクーバー 世界改革派・世界聖公会国際対話(IRAD) 2019年度会議 司祭 西原廉太
  - \* 9/12 - 18 韓国・大田 CCEA 主教会主教 上原榮正、司祭 小林 聡、執事 松山健作、聖職候補生 下条知加子、篠田 茜
  - \* 10/3 - 6 カンボジア・プノンペン アングリカンアライアンス Human trafficking

Meeting 牧野兼三

9. 第64(定期) 総会期諸委員について、会計監査委員に鈴木裕子氏が総会指名されたが、財政主事に就任したため、会計監査委員の新たな候補者を選出し、常議員会に提案することとした。

次回会議：2018年11月19日(月)

## □各教区

### 東北

- 第101(定期) 教区会 11月22日(木) 18時～23日(金) 16時 主教座聖堂 仙台基督教会 礼拝堂・ビンステッド主教記念ホール

### 北関東

- 第85回(定期) 教区会 11月23日(金・休) 10時半～17時 志木聖母教会

### 東京

- 第132(臨時) 教区会 9月1日(土) 12時(正午)～ 聖アンデレ主教座聖堂 日本聖公会東京教区主教選挙では6名の候補者が推薦され、12回の投票で、司祭 高橋宏幸師が選出された。
- 第133(定期) 教区会 11月17日(土) 9時～17時 聖アンデレ主教座聖堂・聖アンデレホール

### 横浜

- 第80(定期) 教区会 11月22日(木) 18時～23日(金・祝) 16時 横浜聖アンデレ主教座聖堂

### 中部

- 第90(定期) 教区会 11月23日(金) 9時～16時 主教座聖堂 名古屋聖マタイ教会

### 京都

- 第113(定期) 教区会 11月23日(金・祝) 9時～17時 主教座聖堂・教区センター会議室

### 大阪

- 教区礼拝/ 聖餐式(教区成立95周年) 9月30日(日) 10時半 プール学院清心館 司式 主教 磯 晴久、説教 主教 中村 豊(前神戸教区主教)

## 神戸

- 第88(定期) 教区会 11月23日(金・祝) 9時～17時 神戸聖ミカエル大聖堂(神戸教区主教座聖堂)

## 九州

- 第113(定期) 教区会 11月22日(木) 17時～11月23日(金・祝) 15時 主教座聖堂・教区センター

## □神学校

### 聖公会神学院

- 2018年度体験入学 10月3日(水)～5日(金) \*4日(木)のみ1日参加可 定員: 男性4名・女性2名 (宿泊は申し込み順) 費用: 全日程12,000円/4日(木)のみ参加6,000円 問い合わせ: 聖公会神学院事務局 電話: 03-3701-0575

### ウイリアムス神学館

- 2018年度体験入学 10月9日(火)～11日(木) 定員: 5名 対象: 満18歳(高卒)以上の方(年齢の上限・性別・学歴は問いません) 費用: 15,000円(食費/宿泊費を含む) 申し込み先: ウイリアムス神学館

## □関係諸団体

- 日本聖公会社会福祉連盟第59回大会・研修会 10月25日(木)～27日(土) 九十九里ホーム(千葉・匝瑳)



† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 イサク木川田 満師(大阪・退職) 2018年7月22日(日) 逝去(81歳)

司祭 アンデレ野々目晃三師(京都・退職) 2018年9月19日(水) 逝去(87歳)

## 📖 出版物案内

- 『2019年度 教会暦・日課表』  
2018年10月1日付発行 頒価300円(税込)

## &lt;人事&gt;

**横浜**

執事 パウロ窪田真人

2018年8月4日 公会の司祭に接手される。

**神戸**

司祭 パウロ上原信幸

2018年12月31日付 姫路顕栄教会管理牧師の任を解く

司祭 ミカエル小南 晃

2018年12月31日付 神戸昇天教会牧師の任を解く

2019年1月1日付 姫路顕栄教会牧師に任命する

**イグナシオ入江 修師****日本聖公会  
横浜教区主教に就任**

2018年9月8日に、日本聖公会横浜教区主教座聖堂（横浜聖アンデレ教会）において、イグナシオ入江 修師の主教接手式および主教就任式がとり行なわれました。説教者 武藤謙一主教（九州教区）。

なお、2018年9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震のため植松 誠首座主教はやむなく欠席され、高地 敬主教（京都教区）が首座主教代務者として司式なさいました。


 出版物案内

## ・『日本聖公会要覧 2018』

2018年10月中旬発行予定 頒価1,000円(税込)

## 〈特集〉2018・広島／長崎「平和への祈り」

### キリストの平和の成就を祈る

2018年広島平和礼拝

神戸教区 司祭 ダビデ 林 和広(広島平和礼拝実行委員)

〈6日に向けての準備：祈りの1日〉

原爆投下から73年を覚えて、原爆投下日の前日である8月5日より「広島平和礼拝2018」が行なわれました。「平和礼拝への導き」と題するプレゼンテーションから始まり、その後、平和公園に移動し、カトリック教会との合同の祈りをお捧げした後、無言のうちに折り鶴を握りながらカトリック世界平和記念聖堂まで行進し、そこでも祈りが捧げられました。今年の広島平和礼拝の初日は、日曜日という主日と重なった日でしたが、午前中の礼拝を経て、平和礼拝への導きによる黙想、広島平和記念公園での祈り、歌いながらの行進ではなく、無言の行進、カトリック世界平和記念聖堂での祈りが捧げられました。祈りが中心でありました。広島平和礼拝の目的の一つは「原爆犠牲者を追悼し、世界平和のために祈る」ということですが、6日の原爆投下の悲劇を思い起こしつつ、原爆犠牲者の魂の平安のため、被爆者のために祈り、そして、

神さまの導きを通して、キリストの平和が実現するために祈りを捧げた1日でありました。

〈人間の命の尊さを想起〉

8月6日は午前8時より広島原爆逝去者記念聖餐式が行なわれました。聖餐式には聖公会関係学校の生徒の方々も多数参列してくださいました。説教者の大阪教区主教磯晴久主教は、その説教の冒頭、大阪北部地震、西日本豪雨災害にて尊い命を奪われた方々及びその御家族のため、また、被災者のため、その復旧に従事されている人々、神戸教区災害支援室の働きに主イエスが寄り添い、主イエスの見守りと支えがあるようにと祈ってくださいました。そして、「私たちは、今、原爆犠牲者を追悼し、世界平和を祈るため、時代を担う人たちに原爆の悲惨さ、戦争の愚かさを伝えるため、『主の平和』とは何かを学び、その実現のために活動できるようになるために、『共に学び、行動し、祈ろう、そして一歩前へ』をテーマにここに集まっていることを改めて喚起してくださいました。

磯主教はこの呼びかけの後、「原爆の図」を描いた丸木位里・俊夫妻について触れられました。他の原爆を描く画家たちの違いとして、丸木夫妻の描く絵は人間が焦点となっているが、そこには人間の命が失われたことが最も辛いことであるという丸木夫妻の思いが反映されていることを話してくださいました。これは、この聖餐式の後に被爆証言をしてく



ださった梶矢文昭氏が繰り返し語られた「人間の命の尊厳」というものに通ずるものでありました。これには、一人ひとりの命は尊いものであること、このことを私たち人間が相互に理解することが大切であるという訴えが込められております。

最後に磯主教は、2017年12月10日オスロで開催された核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞受賞式における被爆者サーロー節子さんの演説を紹介。今回の平和礼拝の配布資料となっているものですが、このサーロー節子氏のメッセージの最後は次のようでありました。

「私は13歳の時、くすぶるがれきの中に閉じ込められても、頑張りました。光に向かって這っていきました。そして生き残りました。いま私たちにとって、核禁止条約が光です。この会場にいる皆さんに、世界中で聞いている皆さんに、広島で倒壊した建物の中で耳にした呼び掛けの言葉を繰り返します。『諦めるな。頑張れ。光が見えるか。それに向かって這っていくんだ』」

磯主教は、このサーロー節子氏の呼びかけを受け、原爆を落とすのは人間であるが、同時に落とさない、核兵器を廃絶すると決意できるのも人間であるという、この世界に生きるわたしたち人間の応答、決断が求められていることを語られ、平和へ向かって歩んでいくことを呼びかけられました。

先ほど少し触れましたが、聖餐式の後、被爆証言として梶矢文昭氏による講演が行なわれました。ご自身で描かれた原爆の様子を示す絵と



被爆証言をされる梶矢文昭氏

共に席につかれた梶矢氏はそこに集まった多くの会衆に向かってその当時の状況を事細く、丁寧話し始められました。いつも通りの朝、平凡な1日の始まりから、かつて経験したこともない大惨事である原爆投下直後の状況、そして、そこからのことを刻々と証言して下さいました。人類史上類を見ないこの原爆投下という大惨事は、人間の手で作られた兵器による、人間が引き起こしたものでありますが、広島、そしてその3日後の長崎の地、そして、そこに生きる人々を破滅に追い込んだ核兵器は、73年経った今、無くなっているどころか、更なる進化を遂げ、地球全体を破滅に追い込むものとなっている・・・これを今、ここに生きている私たちがどのようにこの現実を受け止めるべきかを心底、思い巡らす時を与えられました。お互いが武器を持って、威嚇、牽制し合うことによってしか平和は保たれないのか?このようなものを抜きにして平和を実現するというのは空想に過ぎないのか?私はこの広島平和礼拝に参加し、関わるようになってからずっとそのことを思い巡らしています。

私は一昨年までは英国にある立教英国学院に勤務しておりました。ある年の8月6日、イエス・キリストの変容の日、自宅近くにある教会の礼拝に参加しました。司式・説教は退職された英国人の司祭でしたが、説教の中で広島原爆投下の出来事を話された後、今日における世界のあらゆるところにある争い、軋轢に触れつつ、その犠牲となった人々のことを話して下さいました。そして、イエス・キリストの変容は、この地上の世界、そして、この世界に生きる私たちに関わるものであり、私たち一人ひとりがこの地上に平和を実現するために、変容されていかなければならないと語られました。

この司祭が語られるように、私たち自身が他者のために、自分が生きている場において変容され、よりよい空間を構築できるように祈り求め続けることが、キリストの平和の実現に不可欠だと感じています。

## 被爆73年長崎原爆記念礼拝の報告

死の同心円から平和の同心円へ

長崎聖三一教会信徒 河原ミユキ

原子爆弾投下から73回目の「原爆の日」を迎え、8月9日(木)長崎聖三一教会に於いて「被爆73年長崎原爆記念礼拝」が行なわれました。殊の外、今夏は酷暑の中、日本聖公会6教区からの皆様、平安女学院の学生7名の方々、九州各地から司祭様と信徒の方々、総勢90余名のご参加がありました。

記念礼拝の司式は九州教区武藤謙一主教が、沖縄教区上原榮正主教、神戸教区小林尚明主教始め高良孝太郎司祭、長田吉史司祭、古本みさ司祭、管区事務所総主事の矢萩新一司祭、大阪教区古澤秀利司祭、九州教区中村正司祭、7月に執事按手を授かったばかりの塚本祐子執事が出席され、サーバーは永野拓也聖職候補生が務められました。そして式典長は長崎聖三一教会の牧師柴本孝夫司祭でした。

礼拝は10時30分から、聖歌323番「この世はみな 神の世界」の入堂聖歌で始まりました。礼拝堂は出席者90余名の素晴らしいポリウムとハーモニーに包まれ、輝くばかりの荘厳な響きで満ち満ちました。



この原爆記念礼拝では、聖歌422番「長崎の空は 足もとからはじまっている」が歌われます。2番の歌詞には『長崎の空は 夜の闇におおわれている／大空が原爆の死の灰に染められている／失われた時を嘆きながら／天と地の分かれ道に わたしは立っている』、3番の歌詞は、こうです。『長

崎の空は 神の国へいざなっている／大空が地の民の信仰を抱きしめている／失われた時を謳いながら／天と地の分かれ道に わたしは立っている／新しい時を求めながら／天と地を結ぶイエスに ここで 出会うため』。

「長崎」が遇った悲しい歴史的事実と、これからの私たちの求める希望とがメロディにのせて謳われています。

神戸教区小林尚明主教は、長崎に投下された原子爆弾について述べられ「戦争の真実を知ることが、戦争の抑止につながる。マザーテレサが『知り合い、愛し合う関係をつくるのが平和への道』と語っているように、信頼関係の構築こそが平和への道である」と説教をされました。

投下された原子爆弾がさく裂した時刻11時2分に合わせて私たちは10分間の黙祷の時を持ちました。長崎はこの時刻に航行中の船舶の汽笛、街には時報サイレンが一斉に流されます。この時、市民は爆死した人を想い、佇みながら頭を垂れます。私たち会衆全員も開けられた窓からその様子を感じます。阿鼻叫喚の地獄絵の世界であっただろうこの時刻、7万4千人の苦痛と尊い命が失われてゆく惨劇が想像されます。私たち人間が起した残酷極まりない戦争、二度とこのような悲劇を起こしてはならないと神様に許しを願い、長崎で起きた原爆の惨事を次世代に語り継ぐことがいかに大切であるかを思いました。

5名の方々の代祷がなされ、この歴史から学び、核兵器廃絶と世界平和の実現を為すための決断へ、どうか聖霊を持って私たちを導いてくださいますようにと願い祈りました。長崎の町に原爆の死の同心円が広がり多くの犠牲となった命を思い、この長崎の地から平和の同心円へを広げて行こうと共に祈りを献げました。この日の礼拝堂の会衆席はそのことを象徴するかのよう大きな円形に設置されてあります。それぞれの席から月桂樹

などで飾った十字架に進み、白いお花を挿して慰霊の献花と致しました。



締め括りは、会衆の皆さまで手を繋ぎ合せて輪を作り主教の祝福を受け、愛と平和を与えてくださる神様に願い祈る長崎原爆記念礼拝でした。

午後のプログラムは、85歳になられた大阪教区退職司祭、松岡虔一師に「被爆証言」をしていただきました。原子爆弾のさく裂した爆心地から3キロの地点にあった長崎聖三一教会で被爆された牧師、松岡安立司祭のご長男が松岡虔一司祭です。

その時刻、教会におられたお母様と5人の兄弟姉妹が遭遇した壮絶な被爆体験とご家族7人の逃避行、戦時中の厳しい弾圧があった当時の教会の様子を語っていただきました。戦時下は敵国式の礼拝を行なっているということでスパイ容疑を掛けられ、家庭訪問すらも厳しい尋問を受け、礼拝堂は閉鎖状態、主日はひっそりと家族礼拝を続けたと語られました。そしていみじくも、平安女学院の生徒たちを引率して来られているチャプレン古本みさ司祭は、特高警察によって拘留された当時の徳島の牧師(古本純一郎主教の父上)のお孫さんであり、古本主教が投稿された朝日新聞の記事コピーを皆様で紹介されました。

礼拝堂には原子爆弾で亡くなった当教会の29名の信徒の方々の銘板が掲げられております。松岡司祭が語られる当時の悲惨なお一人一人の

エピソードは被爆された信徒の方々の苦痛が一層身近に感じられました。松岡司祭ご家族がひっそり行なっていた礼拝中、歌っていた「あいのみちかいの つゆたがねば」—古今聖歌466番を全員で歌いました。天国におられる松岡安立司祭の鎮魂歌ともなればとの思いで歌いました。

14時過ぎからは毎年、恒例のフィールドトリップを行ないました。1862年建堂された英国聖公会会堂と、C・M・ウィリアム師宣教館跡の碑など巡る「聖公会さるく」コース。永井記念館、浦上天主堂などを訪ねる「原爆遺構さるく」コースでした。それぞれ参加希望者を募り、暑い中を熱中症対策に十分心配りをしながら元気に出発しました。

九州教区と合同主催で行なう長崎原爆記念礼拝の準備会は、スタッフノートと称している文書を会議のたびに内容を更新しながら検討を重ねております。今年も、長崎聖三一教会の司祭と信徒スタッフたちは、少数精鋭で乗り切ろうと励んでまいりました。口八丁手八丁の働き手の信徒が少なくなっているのが実情なのですが。

日本伝道の根拠地として宣教の働きが長崎から広がったのですが、73年前には愚かな戦争によって原爆の死の灰が、この長崎で広がってしまいました。長崎を最後の被爆地にしなければなりません。「死の同心円から平和の同心円へ」を覚えつつ、被爆地長崎に建つ当教会は、これからも大切な働きを続けて行くことになろうと思います。原爆記念礼拝で主の平和実現とお導きを願いつつ、原爆記念礼拝の報告と致します。



(写真提供：柴本孝夫司祭)

## 第26回 聖公会女性フォーラムを開催

沈黙にふれて～イランカラプテ～

—2018年7月15日～16日・北海道—

北海道教区 司祭 ヘレン 木村夕子

### ■基調講演について

(公開講演：一般市民を含めて75名参加)

先祖にアイヌのルーツを持ち、このことに沈黙するサイレント・アイヌは約10万人存在すると考えられています。今回講師としてお招きしたのは、ご自身アイヌのルーツを持つ30代の女性、石原真衣さん(北海道大学大学院博士課程)。基調講演は「サイレント・アイヌ」の物語～〈人間の住む大地〉で痛みと豊かさを考える～と題して、北海道開拓の歴史の中で置き去りにされている痛みについて語られました。150年にわたって、アイヌには激しい差別を避けるために次世代への血と文化の継承を排除した縦のつながりの分断と、もはや自分のものとは思えない祭儀や文化との間に隔たりを感じ、取り戻しがたい横のつながりの分断がある。これら縦と横の分断の中で生まれ育ち、自らにアイヌという認識は無いのにアイヌのルーツを持つことで和人ではないとされる存在は、「アイヌでも和人でもない」という自己認識に至ります。このようなサイレント・アイヌは北海道では50人に1人の割合で存在し、もしかしたらあなたの隣で沈黙しているかもしれない。ただしこれはアイデンティティーの混乱による個人の問題ではなく、このような存在を作り出して今もなお尊厳をないがしろにし続けている歴史と社会全体の問題なのだと指摘しています。

カナダのブリティッシュコロンビア大学では、「この大学は未だ譲渡されていない先住民の地に建てられている」と記したサインが掲げられ、すべての先住民族のトーテムポールが並ぶ広場があり、先住民族と大学の関係は良好という事です。そしてどの学生も自分のルーツについて自己紹介する習慣があるそうです。一方日本ではどうかというと、ルーツについて語られるのは

一方的にアイヌばかりで、和人は一切語らない。北海道大学はアイヌ人の遺骨を盗掘したことを認めながら謝罪には全く応じない。

北海道は本来、アイヌモシリ(人間が住む大地)と呼ばれていました。石原さんは、「人間とは自分以外の他者の痛みを想像できる存在」と考え、和人にもアイヌ差別や遺骨の盗掘に加担したことを深く悔やみ続けて心に痛みを負う人もいることを知り、お互いが持つ痛みは平和の資源としてこれから新たな未来を拓く可能性を持つものであると考えています。公演の最後は、これからは「人間」という存在全体を問い直す働きを目指したいと結んでおられます。

北海道に生まれ育っているながらアイヌについて語ろうとすると、途端に言葉に詰まる経験をする人は少なくないでしょう。それは、何を語るべきかを知らなかったからです。150年という長きにわたる差別が放置され、今も痛みを訴える人と出会って、しかも先祖4代にわたって痛み続けていると訴える声に黙っている理由はもう無いのだと思いました。私が大切に思う故郷の大地が、10万人の痛みを無視し続ける地であってほしくない。真の人間性を持つ人々の大地となるように、これからは学びと語りに取り組みたい。

### ■女性フォーラム全体のこと

大切な伝統の井戸端会議は、今回もゆったりとした時間を持って行われました。グループは、「女性の司祭」「平和」「原発」「アイヌ民族」「性的マイノリティー」の5つに分かれて、前半は基調講演に関する分かち合いを、後半はそれぞれのテーマに関する現状報告や分かち合いなどの時間を持ちました。また、国連女性の地位委員会の報告を女性デスクの吉谷かおるさんから、ジェンダープロジェクトの報告を篠田茜さん



と思いますが、これからの時代を担っていく子ども達には平和と希望を託していく、そのような未来を見据えた表現になっていました。私は、ここにまず神様から平和が与えられることが一番大切なことなのだと思うされ、目に見える現象だけで心を惑わされるのではなく、与えられている道を共に歩むために見据えないといけな神様のご臨在を強く求めたいと願いました。

大韓聖公会のある青年参加者は、独立記念館での分かち合いの時このように話してくれました。「僕は小さい時から学校で教育を受けてきたので、ここの展示物に対して何も心が動かされることはないのだけれど、わざわざ日本から学びのために来てくれた日本聖公会の青年参加者がこれらの展示物を見て心が傷つかないか、



メボン教会 柳寛順博物館

そのことを僕は心配になったし、これを見せていること自体に申し訳ないと思った。」歴史上の出来事であっても日本が行なった支配のもとでの残酷な行為は事実であり、二度と繰り返さないことを念頭にすると、

今も記憶に残しておくべき事だと私は思いましたが、彼の発言は今回のテーマである‘愛から始まる神の正義’という言葉そのものだと私は思いました。

プログラムの最終日8月17日には閉会礼拝(聖餐式)をし、代祷の時間に4つグループがそれぞれ分かち合いの内容を祈りの形にして発表しました。各々がまったく違う表現をして祈りをささげる姿は、私の目にはとても美しく、頼もしく、互いの結びつきを確信するもので、とても満たされた思いにされる代祷になりました。そのうちの一つのグループは参加者6人がそれぞれ絵を描き、最後に十字架の形にその用紙を組み合わせ

て、一つの絵を作り上げました。十字架の形をした用紙の真ん中には大きな丸い円が浮かび上がり、各自が書いた手がそれをもっているように表現されていました。そこには、一つのパンにより‘私たちは多くいても一つ’であること、キリス



グループ発表

ト者にとって‘国はたった一つ(神の国)’であることなど、‘一つにされる’ことについての多くの意味が込められていると説明されました。私の印象に残ったのは、一人の手だけが大きな丸い円を持っていなかったという点

です。後で聞くと、それは絵の仕上がりを想像出来なくてそのような絵になってしまったと本人は恥ずかしがっていました。しかしそれもまた見る人には何かのメッセージとして意味を持つものであると思いました。私は、手を伸ばして入ろうとしている人がいることを私たちは忘れてはいけないこと、すべての人が常にイエス様によって招かれていることをもう一度覚えることを教えられていると受け取りました。

共に出掛け、共に感じ、共に学び、共に思いを伝えあうことにより、両聖公会の青年参加者はともに一歩、前に歩みを進められたのだろうと思い。神様にすべてを感謝いたします。



フェアウェルパーティー日本参加者

## 神戸教区・西日本豪雨被災者支援室より

### 第2信

2018年8月5日

主の御名を賛美いたします。

第1信以降、当支援室ではボランティアセンター開所に向けて作業を進めて参りましたが、この間に九州教区からは軽トラックや道具・資材の提供を受け、また多くの教区から支援の申し出や献金をお送り頂き、心から感謝いたします。7月31日に倉敷と広島ボランティアセンターの開所式が行われ、翌日から活動が開始されております。以下、両ボランティアセンターの活動状況をお知らせいたします。

#### \*広島聖モニカ・ボランティアセンター

責任者 司祭 瀬山会治

現在、広島聖モニカVCでは、広島市社会福祉協議会を通して南区楠那地区の被災地で作業ボランティアを行っていただいています。ボランティアさんは3名から5名が来てくださっており、宿泊場所にはまだ余裕があります。一方、ボランティアセンターを支えるキッチンボランティアさんや運転ボランティアさん、常駐スタッフが不足しています。作業には行かず、センターを支えてくださる方がご協力くだされば、より多くの作業ボランティアさんを受け入れることができます。

作業の内容は、被災した家屋から土砂や瓦礫をかき出し、土のう袋に入れ、積み上げて行く作業が中心ですが、場所によってはその他の作業をすることもあります。特に難しい技術を必要としていませんので、「被災された方のために少しでも役に立ちたい」と思われる方はどなたでもボランティアに参加していただきたいと思います。猛暑の中での作業になりますので、休憩は15分に1回、15分間行われ、水分補給なども十分に行われています。また、疲労を感じられた方は、ボランティアセンターで休息していただくこともできますし、センターの施設整備などの軽作業をお願いすることも可能です。個人の体力や能力に応じた奉仕をお願いいたしますので、自信がないと思われる方

も、心配することなく、ご自分のペースでボランティアをすることが可能です。ぜひ、ご参加ください。

#### \*倉敷聖クリストファー・ボランティアセンター スタッフ一同

7月31日火曜日に開所式が行われ、倉敷市真備町を中心に活動を行っています。開所礼拝で教区主教より「これらのことをしてくれた事は、私にしてくれた事である」という福音書からのメッセージを頂き、正式に活動を開始しました。

現在、真備町では水没した家財の家屋からの搬出は少しずつ進みつつありますが、道路や空き地に積み上げられた状態で放置され、復旧を妨げています。多くの家は2階まで水没したため、今後、傷んだ床や壁を撤去し、消毒・乾燥させる必要があります。そのスペースを出来るだけ早く確保するため、社会福祉協議会から派遣されたボランティアの方々と協力して、家財や床材等を集積場に運んでいます。

倉敷VCでは信徒の方からお借りした3トンダンプを使って、毎日3～4人で搬出作業を行っています。昨日は10人のボランティアを社協から送っていただきましたが、今日は「5名しか送れない」とのお返事でした。

一般のボランティアはシャトルバスで真備町入りし、バス停となっている市役所の支所や、病院といったサテライトから徒歩で作業現場を往復するため、1日3時間程度の作業が限界となっています。

倉敷VCでは車で作業場まで移動し、ダンプが往復する約20分から30分間は休憩時間となりますので、比較的長時間続けることが出来るようです。社協でも搬出手段に苦慮しているとのことですので、軽トラック等の持ち込みは歓迎されています。運転だけでも大歓迎です。ご参加をスタッフ一同お待ちしております。

神戸教区主教 オーガスチン 小林 尚明  
神戸教区 西日本豪雨被災者支援室  
室長 司祭 ミカエル 小南 晃

**第3信**

2018年8月10日

主の御名を賛美いたします。

ボランティアセンターを開設して2週目に入りました。広島、倉敷の両ボランティアセンターともボランティアの方々が駆けつけて来ています。以下、両ボランティアセンターの活動状況をお知らせいたします。

**\*広島聖モニカ・ボランティアセンター**

責任者 司祭 瀬山会治

今週もキッチン&作業ボランティアさんが来てくださり、微力ながら広島の復興支援の働きを行うことができました。ありがとうございます。

夏休みに入り、被災地では学生のボランティアさんの姿を見かけるようになりました。8月9日の作業では、7～8人のグループに分かれ、2交代制で3時間、15分作業して同じ時間休憩をとり、ボランティア活動を行いました。家屋の庭や壁などの細い隙間に入りこんだ土砂は、重機では取り出すことができず、人の手でかき出さなければなりませんので、土砂をシャベルですくって土のう袋に入れ、道端に積み上げて行きます。休憩中は十分に水分を補給しますので、暑くて倒れることはありません。特別な技術はまったく必要なく、作業が終了した時は、今日の働きを振り返り、微力ながら貢献できたのではないかと満足感や達成感もあります。

**\*お盆の特別ボランティア\***

広島市の社会福祉協議会は、8月13日から16日までお盆休みに入り、作業ボランティアに入ることができません。そこで、お隣の坂町の社会福祉協議会を通して活動させていただく予定にしています。ちょうど、聖モニカ幼稚園もお盆休みのため、いつもは制限されている駐車場も使用することができますので、自家用車で来られるボランティアさんを特に募集させていただきます。この機会にボランティアを希望される方は是非、お越しください。ボランティアセンターでは、少しでも多くの方が私たちの活動にご協力くださいますことを願っております。

**\*倉敷聖クリストファー・ボランティアセンター**  
スタッフ一同

今週は遠路他教区の執事さんがおみえになり、ボランティアに合流して下さっております。今週は先週に引き続いて、まび記念病院近くの住宅地内にある公園に積まれた荷物の搬出作業に従事しております。その後、県外から御家族でボランティアに来られた方々、また東京から女学生も来られて活動をされております。

開所1週間前より、視察・調査含めて倉敷にてボランティア活動を続けておりますが、活動から3週目に入り、社協のメンバーとの方々とも少しずつ連携が取れるようになりました。真備でのボランティア活動は、家屋から水浸しになった荷物を搬出したり、泥をかき出したりする作業から、一定の場所にショベルカー等で積み上げられた荷物をトラックや軽トラックなどに積んで、廃棄場へと搬出する作業へと移行しつつあります。しかし、真備のボランティア地区ではトラックや軽トラックが不足状態にあります。その中であって、信徒さんからお借りした3トンドンプトラックが有効活用されておまして、日々、社協のメンバーと連絡を取りながら、社協から依頼された作業場所に向かい、たくさん積み上げられた荷物を順次、搬出しております。

今後の作業は、一定の場所にかためられ、積み上げられた荷物の搬出作業及び清掃が活動の中心になります。清掃だけでも、現地までの運転だけでも大歓迎です。また、宿泊者のためのキッチンボランティア也大歓迎です。ご参加をスタッフ一同お待ちしております。

神戸教区主教 オーガスチン 小林 尚明  
神戸教区 西日本豪雨被災者支援室  
室長 司祭 ミカエル 小南 晃

**第4信**

2018年8月16日

主の御名を賛美いたします。

8月も丁度半ばを過ぎました。これまでに教区内外から広島のボランティアセンターには27人、倉敷には28人の信徒また教役者の方々が来て下さり、ボランティアやセンターのスタッフとして被災者支援の活動をしてくださいました。両ボランティアセンターの今週の活動状況などを報告させていただきます。

### \*広島聖モニカ・ボランティアセンター

責任者 司祭 瀬山会治

当ボランティアセンターでは、8月末まで社会福祉協議会を通じて復興支援活動を行っています。

作業内容は、当日の作業場所によって多少異なりますが、重機が入ることができない、土砂被害に遭われたお宅の庭先や細い路地に流れ込んでいる①土砂をかき出し、②どのう袋に土砂を入れ、③袋を集積場所まで運ぶと言う内容になります。作業時間は約15分、その後休憩も同じ時間取ります。休憩時間には、十分な水分や塩飴が用意されています。昼食の弁当代や作業後の入浴料(430円)は、各自で負担していただきます。作業服には決まりはありませんが、作業のしやすい服装として長そで長ズボン、長ぐつ、ゴム手袋、ぼうし(ヘルメット)をご用意ください。長ぐつ、ゴム手袋、ぼうしの予備を若干ですが、無料でお貸しすることができます。

なお、センターでは、作業ボランティアの方の健康や生活面でのご心配をおかけしないために様々な方法や施設が用意されています。洗濯はセンター近くのコインランドリーを使用していただけですし、コンビニやスーパーへの買い出しも可能です。センターには、クーラー、ウォシュレットトイレなどが設置されています。寝袋は各自で持参していただきますが、お持ちでない方のために、若干ですが無料で貸し出すことができます。

センターへの交通手段は、JR広島駅から山陽本線岩国方面で「新井口(しんいのくち)」駅まで約12分、200円です。JR新井口駅には、運転ボランティアさんかスタッフがお迎えに参りますので、あらかじめ到着時間をお知らせください。その他、何かご質問がございましたらセンター専用電話 070-2637-1873 までお問い合わせください。

### \*倉敷聖クリストファー・ボランティアセンター

スタッフ一同

今週は、お盆の期間中の社会福祉協議会のボランティア募集が中止されました。真備町だけでも50人以上が犠牲となり、初盆を迎えます。水没した家財の搬出に入ったお家でも、残された仏壇にお花が供えられました。

屋内からの搬出の場合も、屋外からの搬送の場合も、効率だけでなく、最後に少し玄関や、門の周りを清掃するようにしました。ご自宅に帰って来ら

れた時に、少し作業が進んだと、ホッとしていただけたと、メンバーが一日の作業の報告の時間に伝えたことです。

社協からのボランティアの応援はなくなったのですが、日曜からお盆にかけての4連休の間、様々な方々が独自のルートで作業をしておられました。「9年前の水害に各地の方に助けていただきました。少しでも恩返しをしたくて来ています」と佐用町から重機・ダンプ持ち込みで作業をされる会社員、神奈川県から22時間かけてオートバイで来た青年、津山から休みの度に来られるご夫婦、狭くはない街ですが、何度も顔を合わせる人がいます。

水害から1カ月経ちましたが、細い路地の奥は、ボランティアが入らず、ご家族だけで搬出作業を続けておられる場所も、数多く見られます。

ゆっくりと、しかし、立ち止まらず、歩みを進めたいと思っております。

神戸教区主教 オーガスチン 小林 尚明  
神戸教区 西日本豪雨被災者支援室  
室長 司祭 ミカエル 小南 晃

## 第5信

2018年8月23日

主の御名を賛美いたします。

広島と倉敷にボランティアセンターを設けてボランティアを公募しての支援活動については、残すところ1週間となりました。今までに各地から多くの方々にお越し頂き、支援のための心のこもった活動をして頂いたことに感謝します。しかし被災地はまだまだ厳しい状況にあります。近く今後の支援活動について協議・検討する予定です。今週の両ボランティアセンターの活動状況を報告いたします。

### \*広島聖モニカ・ボランティアセンター

責任者 司祭 瀬山会治

今週はお盆明けからはスタッフのみと言う状況となり、視察や調査、小さな作業をコツコツとさせていただいています。お盆の間、休んでいた広島市の社会福祉協議会の活動も再開しましたが、センターが開設する以前から関わりのあった東広島市の安芸津町での活動は、地域の方とのかかわりの中で少しずつですが継続しています。安芸津町は

センターから約50キロ、普段なら車でも約1時間程度で到着する距離ですが、現在は渋滞が慢性的に起こっており、2時間かかってしまいます。それでも信徒の方が住む地域でもあるため、安芸津町で活動をさせていただいています。広島市内はボランティアさんがたくさん活動しているのですが、広島から遠くになればなるほどボランティアにやって来られる人数も少なく、しかも、行政でも対応することが困難であると言うお話を地域の方からお聞きました。もちろん、私たちも専門的な技術を持つ者ではありませんし、大掛かりな重機もありません。そのような復興の格差や自分たちの力の無さに日々、葛藤しています。

広島聖モニカ・ボランティアセンターの活動も残すところあと少しとなってきました。しなければならぬ活動やそれができない事情など複雑な思いを抱えつつも、それでも、お気持ちのあるボランティアの皆さんと共に少しでも復興支援のお手伝いできれば、神様のみ心にかなった活動となればと祈りつつ活動しています。

#### \*倉敷聖クリストファー・ボランティアセンター スタッフ一同

今週も様々な地域から聖職・信徒が集まってくださり、作業を行いました。お盆の連休は社協のボランティアはお休みだったのですが、連休を利用したボランティアがそれぞれに地域に入って作業をしてくださったおかげで、週明けの月曜日にはずいぶん路上の水没した家財は減ってきました。今後は家屋の乾燥のために剥がされる床板や壁材が撤去されたものが多くなると思います。

ただ、平日はボランティア自体が減ってきたようで、一緒に作業して下さった方も「ボランティアを作業現場まで運ぶ運転ボランティアとして登録し、8人乗りの自家用車を持ち込んだけど、あまり需要がなく、作業に加わっています」とおっしゃっていました。

先週までは、一か所まで1日以上かかる搬出・運搬作業も多かったのですが、今週に入り、一か所あたりの集積物が少なくなったためか、一日で数か所を周ることも多くなりました。

ただ、ダンプが入れない所も残っていますので、これまで4週間お借りした3トン・ダンプは今週末でお返しし、今後は軽トラックに替え、作業

を継続していく予定です。

宿泊を伴うボランティアセンターの運営は後1週間で終わる予定ですが、地域のニーズに応じることができるシフトチェンジを、他のNPOとも連携しながら考えていく予定です。

神戸教区主教 オーガスチン 小林 尚明  
神戸教区 西日本豪雨被災者支援室  
室長 司祭 ミカエル 小南 晃

## 第6信 2018年9月5日

主の御名を賛美いたします。

西日本豪雨被災者支援に際しては、皆様からの暖かく心のこもった力強いご支援のもと、微力ながら被災者支援活動を続けて参りました。7月31日に広島聖モニカ・ボランティアセンターと倉敷聖クリストファー・ボランティアセンターを開所し、8月いっぱいボランティアの方々を受け入れて宿泊場所と食事を提供する形で支援活動を行って参りました。

この間に被災地での復旧作業、ボランティアセンターでの食事作りなどの世話のために約90名のボランティアや教役者の方々のご奉仕くださいました。そしてお越しくださった方々に怪我や熱中症などの病気になられた方々がなく、活動を続けて参れましたこと、主の守りと皆様のお祈りによるものと感謝しております。

広島と倉敷の2か所にボランティアセンターを設け、ボランティアの方々を公募して行う支援活動は当初の予定通り、8月31日に終了いたしました。ボランティアセンター閉所後の支援室の活動については、8月24日に第2回目の西日本豪雨被災者支援室会議を開き、以下のように決めております。

まず広島においては、当被災者支援室としての活動は終了します。但し、この豪雨災害発生直後から広島復活教会、呉信愛教会の牧師と教役者による被災信徒及びその近隣の方々への救援活動が行われてきており、そうした活動は今後も継続されることになります。

倉敷においては、倉敷聖クリストファー教会を拠点とした活動は終了しますが、岡山聖オーガスチン教会に連絡場所を移して岡山サテライトと命名し、これまでの活動を通じて関係が出来たNPO団体

や被災者と協力や連絡を取りながら活動を継続します。

継続期間は最大2カ月と考えており、この間、九州教区より軽トラックなど必要機材を引き続き貸与されていますことは大変感謝しています。被災地で必要とされる支援は刻々と変わっており、それに応じて小回りの利く形で、支援室有志メンバーにより、月数回の頻度で復旧作業に限らず、訪問や傾聴といった支援も可能なら行って参りたいと考えて

います。状況によってフェイスブックなどを通じて期間を限定してボランティアを求めるかも知れませんが、その時にはよろしくお祈りいたします。

被災地はなお厳しい状況が続いております。今後とも皆様のお祈りをお願いいたします。

神戸教区主教 オーガスチン 小林 尚明  
神戸教区 西日本豪雨被災者支援室  
室長 司祭 ミカエル 小南 晃

## 北海道 胆振東部地震による被害関連情報

日本聖公会 北海道教区

**第1報** 2018年9月10日

主の平安をお祈りいたします。

9月6日未明に北海道胆振地方を震源に起きた最大震度7の地震によって、多くの被害が発生しました。10日現在、亡くなられた方41名、避難を余儀なくされている方々が2千名ほどに達しています。また、この度の災害は、たった1基の火力発電所の停止によって、北海道全域で電力の供給がストップするブラックアウト現象という特異な事象も発生し、大きな混乱をもたらしました。

教区事務所も丸2日間停電となり、情報の収集、連絡に大きな支障が生じたこと、また余震への備えも必要なことから、皆さまへのお知らせが地震発生から5日後となってしまいましたことお詫び申し上げます。停電中、また電源が回復して以降、多くの方々からお見舞いをいただき、また、お問い合わせ、支援のお申し出をいただきましたが、以上のような理由で対応することができませんでした。

北海道内全体の被害状況はすでに報道機関により次々と更新されておりますので、そちらをご覧ください。ここでは北海道教区関連の被害状況について、また関連する情報をお伝え申し上げます。

＜被害を受けた教会、信徒の状況＞

1. 新札幌聖ニコラス教会― 牧師館内部の壁に複数の亀裂が生じています。また、床部分

に相当の傾斜があるため、安全を考慮し、このままでは居住することは困難であると判断しています。

定住教役者である上平聖職候補生、ご家族はご無事ですが、早急に近隣のアパート等に転居する予定です。礼拝堂部分に損傷はなく、専門家による安全面の診断を経て礼拝は継続する見込みです。

2. 苫小牧聖ルカ教会― 外壁の一部が落下、下地が露出した状態になっています。また、厚真町在住の信徒1名が割れたガラスによって足に怪我をされ、別の場所にあるご実家に避難しておられます。さらに、むかわ町の信徒のご家族1名が避難所に滞在しておられます。
3. 室蘭聖マタイ教会― 現在、定住教役者不在ですが、牧師館の窓ガラス数枚が破損しています。

＜施設について＞

- ・ 教区内には5つの幼稚園、4つの保育園、NPO法人が1つありますが、建物損傷の報告はありません。しかしながら、地震によって心に傷を受けた子どもたちもおりますので、各施設は全力で子どもたち、保護者のケアに当たっています。

＜ボランティアの受け入れについて＞

- ・ 大きな被害があった厚真町、むかわ町、むかわ町穂別地区に近い、苫小牧聖ルカ教会の吉野司祭が現地へ赴き、被害の実態、ボランティアの受け入れ状況について調査をしてお

ります。

広大な北海道で小さな自治体が離れて点在する地理的な特性のため、現地では人手は必要なものの、ボランティアの交通手段、宿泊施設などを確保するのが大変むずかしい状況です。また現地では停電も継続しているなど混乱もあることから、現状では北海道教区が主体的にボランティアを受け入れ、派遣することは考えておりません。ただ、現地の状況が改善し、社会福祉協議会などの体制が整い、協力関係ができれば、苫小牧聖ルカ教会を拠点にボランティア活動を展開する可能性があります。その場合も、教会の物理的な事情で人数は4～5人の規模、期間も2週間程度にならざるを得ないと考えています。ちなみに、苫小牧の教会から上記3地区の被災地、避難所までは車で片道40～50分の距離になります。

#### <支援募金について>

- ・ 北海道教区独自の活動を展開するのが困難なため、この度の災害に対する支援募金の受付は行わない方針です。お気持ちのある方は公的な機関、民間の団体などをご利用下さい。

今後、新たな情報、展開がありましたら、その都度お知らせ申し上げます。

改めてこの度の地震によって亡くなられた方々、被災し、困難な生活を強いられている方々の上に、主の癒しと平安が与えられますように、また支援に当たる方々に主のみ力が加えられ、導きがありますように、お祈りをお願い申し上げます。

以上

日本聖公会北海道教区 主教 ナタナエル 植松 誠  
事務所主事 司祭 コルベ 下澤 昌

日本聖公会 北海道教区

**第1報**

追加・訂正 2018年9月12日

主の平安をお祈りいたします。

9月10日付けでお送りした第1報で、新札幌聖

ニコラス教会の被害状況についてお知らせいたしました。その点について、新たな展開がありましたのでお知らせいたします。

新札幌聖ニコラス教会は、この度の地震によって牧師館を中心に壁のクラック、床部分に傾斜が生じるなど、生活に支障がある損傷を受けました。

その後、専門家による建物の診断を受けたところ、詳細は天井や床を切開しなければ確認できないものの、建物の本体構造には大きな問題がなく、最も障害となっている床の傾斜は、何とか修復可能であることが判明いたしました。また、今後もし同規模の地震が生じた場合でも、建物に重大な損傷を受ける可能性は低いことも確認されたところです。

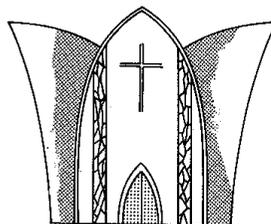
そのため、当初考えておりました、定住者の上平聖職候補生、ご家族の移転は、ご本人の同意をいただき、必要なしとの結論を出しました。

しばらくの間、不便な生活を強いられることとなりますが、早期に修復工事が行われるように善処したいと考えております。

引き続き、この度の地震によって被災し、困難な生活を強いられている方々の上に、主の癒しと平安が与えられますように、また支援に当たる方々に主のみ力が加えられ、導きがありますように、お祈りをお願い申し上げます。

以上

日本聖公会北海道教区 主教 ナタナエル 植松 誠  
事務所主事 司祭 コルベ 下澤 昌



日本聖公会 北海道教区

**第2報**

2018年9月13日

主の平安をお祈りいたします。

9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震から1週間が経過しました。40名以上の方が亡くなられ、今も1500名ほどの方々が避難生活を余儀なくされています。北海道は秋を迎え、急速に朝晩の冷え込みが強くなるため、避難者の健康が心配されます。しかし、震源地に近い避難所には未だに停電、断水の箇所が多く、一刻も早い復旧が望まれます。また、80キロほど離れた札幌市内でも多くの住宅に被害が生じ、幹線道路の陥没や工場の被災、物流の停滞による食料品不足の状態が続いています。

各自治体は、ボランティアの受け入れ体制を整えつつありますが、宿泊施設やその他の設備を持たないため、日帰りが可能で、なおかつ自家用車で移動可能な場合に限定しているところが多いのが実情です。担当者からは、復興の道のは「細く長く」にならざるを得ないとの声が聞こえます。

このように現地での受け入れ体制にある程度の目途が立ったため、北海道教区は苫小牧聖ルカ教会に「聖公会ボランティアセンター」を設置、ボランティアの受け入れを開始することとしました。しかしながら、物理的、人的な制約もあり、最小限の規模となりますことをご了承ください。

ご奉仕可能な方は下記の要領をお読み下さり、申し込み用紙に記入してお送り下さい。

亡くなられた方々に主にある平安が、困難な生活を強いられている方々にふさわしい援助と希望が与えられますようにお祈り申し上げます。

## &lt;聖公会ボランティアセンター概要&gt;

1、苫小牧聖ルカ教会内に「聖公会ボランティアセンター」を設置します。

○住所 北海道苫小牧市旭町 2-6-22

☆ JR 苫小牧駅より徒歩 10～15分

☆ 新千歳空港からはバスが出ています

☆ フェリーターミナルからは苫小牧駅経由のバスに乗り、市役所前で下車徒歩 8分

○ボランティアセンター代表

吉野暁生司祭(苫小牧聖ルカ教会牧師)

2、ボランティア受け入れ期間

9月19日(水)～10月3日(水) 2週間

○参加期間は1泊以上、複数日が可能です。

○日曜日は、作業はお休みとします

3、受け入れ人数 最大時5名まで

4、活動地域および仕事の内容

厚真町、むかわ町、安平町の被災現場、または避難所にて、各社会福祉協議会との連携のもとで動きます。

(内容) 家屋内の片づけ、倒木撤去の手伝い、その他、その日の要請に従います。

物資の運搬など、自動車免許をお持ちの方は車の使用をお願いする可能性もあります。

5、一日のスケジュール

7:30～45 現地(むかわ町厚真町、安平町)へ出発

8:30 ボランティア受付(現地)

9:00 午前の作業スタート

12:00 昼食休憩

13:00 午後の作業スタート

15～16:00 作業終了

17:00 センター着

17:30 夕の祈り

18:00 夕食

\* なお、送迎の関係上、午前、午後のみ参加はできません。

6、ボランティアセンターで提供するもの

- ・宿泊場所
- ・食事(外食の場合もあります)
- ・作業現場までの送迎
- ・シャワー施設
- ・ボランティア保険(未加入者)

7、持ち物

- ・動きやすい服、帽子、タオル、軍手、上靴は必須(床にガラスや陶器が飛散しているものを片付けます)。
- ・厚手の衣類、ジャンパーなど(天候によっては水点下近くまで気温が下がります)

8、申し込み方法

- ・事前に自治体にボランティア登録が必要なため、到着3日前までに「申し込み用紙」にご記入の上、FAX かメールに添付してお送りください。なお、個人情報、それ以外の目的に使用することはありません。

- ・申し込み先  
 苫小牧聖ルカ教会 FAX 0144-34-1178  
 Email : luke@nsskk-hokkaido.jp (吉野司祭)
  - ・連絡先  
 吉野暁生司祭 携帯電話 080-3254-1675
- 以上

日本聖公会北海道教区 主教 ナタナエル 植松 誠  
 事務所主事 司祭 コルベ 下澤 昌

## 世界の聖公会の動向

- ・大韓聖公会の新首座主教
- ・オーストラリアの緊急援助要請
- ・米国総裁主教が休養

管区渉外主事  
 司祭 ポール・トルハースト

### ○大韓聖公会の新首座主教

大田教区のモーセ兪 樂濬(ユ・ナクジュン) 主教が、大韓聖公会の議長主教(首座主教)に選出された。同主教は、釜山教区のオネシモ朴 東信(パク・ドンシン) 主教の任期終了にあたり、管区総会で後任として選出され、今後2年間、議長主教の役目を果たすこととなった。

総会では、ペテロ崔 俊基(チェ・ジュンギ) 新教務院長(総主事)も任命された。同管区は、アングリカン・コミュニオン・オフィスへのメッセージの中で、新指導者と大韓聖公会に対する祈りを呼びかけた。

同主教は就任演説の中で、嵐を鎮めたイエスについて語り、さらに聖公会を神を目指して進む船になぞらえ「聖公会の船に福音の油を満たし、愛をもって協働しながら航海を進めなければなりません」と述べた。

### ○オーストラリアで緊急援助要請が出される

シドニーの支援機関であるアングリカン・エイド(Anglican Aid)は、ニューサウスウェールズ州西部で猛烈な干ばつに襲われたコミュニティを支援するために緊急援助要請を出した。州政府によると、ニューサウスウェールズ州の99%が現在干ばつによる被害を受けており、自ら緊急援

助支援を開始したと述べている。教会の援助活動は、ニューサウスウェールズ州北部と西部の教会に物資を提供し、1900年以來最悪となる干ばつの影響を受けている各家庭に対し、すでに直接支援の要請に対応している。

アーミデール教区の代理主教であるブライアン・カーク師は「この突然の干ばつによる被害は、多くの人々を驚かせた」と語った。彼は、教会による援助は農家にとって大きな助けとなるだろうと付け加えた。また、キリスト教徒たちが降雨を願い、農家や農村部の事業のため、また農家がより良い判断をできるように祈りを捧げ、神への信仰を失わないように呼びかけた。

聖職者と信徒は、食料や衣服を提供し農家の支援を積極的に行なっている。その一方で、在庫の供給、維持管理、日々の家事を支援するためのボランティア活動を含む実践的かつ精神的なサポートを提供するために訪問を行なっている。

### ○米国聖公会の総裁主教が癌手術を受ける

米国聖公会のマイケル・カーリー総裁主教は、先日前立腺癌の診断により手術を受け、現在休養中である。総裁主教は、7月に「様々な検査や診察を受け、妻や娘たちと話し合っ、外科治療を決定した」という公式声明を発表し、前立腺を切除する外科手術を受けた。

米国聖公会は「総裁主教の家族と医療チームによると、手術は期待通りに成功した。カーリー総裁主教は静養中であるが、完全復帰が期待されている」との声明を発表した。

また、「カーリー総裁主教と家族は、寄せられる多くの祈りや善意に感動している。それらに感謝すると共に、回復期間中のプライバシーを求めている」と述べた。

**第5期ヒルダ・ミッシェル講座**

(勸話奉仕者支援講座)

**東京教区・渋谷聖公会聖ミカエル教会**

司祭が居ない教会で主日礼拝を守る時、「朝の礼拝」ではなく「み言葉の礼拝」を行なうことが勧められてきた。その意図は、主日の日課からその日の福音を会衆で分かち合うことの大切さを重要視している点にあると推察される。この礼拝では信徒が勧話をするのが望ましいとされているが、信徒にとってはその任を担うことは容易でないといえる。聖書日課の内容を理解し、その福音メッセージを会衆と分かち合うための訓練を受けていない信徒に、直ちにそれを求めることには無理があるというべきであろう。

信徒がそれを担うためには、しかるべきサポートが必要であり、まずは、日課となっている聖書箇所を解説するテキストの提供と、それを用いての学習、実際に勧話を準備し、模擬勧話を行なって、それを分かち合うというワークショップの学びが有効ではないかと思い、つぎのような勧話奉仕者支援講座を企画した。いずれも日曜日の午後3:30から東京教区・渋谷聖公会聖ミカエル教会にて行なわれる。

〔講座概要〕

## 1. 「み言葉の礼拝の意義について」

9月9日(日)

講師：加藤博道主教(前東北教区主教)

## 2. 「聖書日課のテキストを作成した意図とその使い方について」

9月16日(日)

講師：雨宮 慧神父(カトリック東京教区神父)

## 3. 準備(聖書箇所の学び)

講師：布川悦子(聖公会神学院講師)

9月16日(日)、10月14日(日)、11月4日

(日) 3. を受講した後、受講者は4. に向けて各自勧話原稿を準備する。

## 4. 模擬勧話と分かち合い

指導：市原信太郎司祭 / 山口千寿司祭

10月7日(日)、10月28日(日)、11月18日

(日)

## 3. 4. については3主日の聖書日課をテキストに繰り返しの学習となる。

さる9月9日には加藤博道主教(前東北教区主教)をお迎えして、第1回の講座が行なわれた。東京教区内から26名の方が講話を聴きに見えた。

なお、用いるテキストについてはカトリックの聖書センターが発行した三年間の主日日課資料を日本聖公会のA、B、C年の日課表に沿って編集し、雨宮神父の許可・協力を得て全国に供給することを準備中である。

(渋谷聖公会聖ミカエル教会・山田益男)

 日本聖公会『管区事務所だより』購読の御案内

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面で的確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の定期購読についてのお問い合わせが増えておりますので、ここに御案内いたします。

本誌は原則として年に11回発行、1年分の購読料は1,000円です(特別増刊号なども含む)。複数年分まとめてお支払いいただく場合は1,000円の倍数にてお振込み願います。

なお、教会によっては教会委員の人数分をまとめてお申し込みくださる向きもだんだんと増えております。複数の部数を一括して御注文いただく場合には、1人1年500円×人数分にて計算し、お申し込みください。発行の都度まとめて教会宛にお届けします。購読料の振込み等については、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。電話：03-5228-3171

管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日本聖公会  
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yaraicho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

自民党衆議院議員 杉田水脈 様

## 「LGBTカップルは生産性がない」という主張に強く抗議します

あなたは『新潮45』2018年8月号のコラムで「子どもを作らないLGBTのカップルは『生産性がない』ので税金を使って支援する必要はない」という論旨の主張をされました。わたしたちはこの主張によってどれだけの性的少数者が傷つき、苦しんでいるかを思い、断固抗議いたします。

この主張は国民一人ひとりの幸せのために働く公僕たる政治家として到底許されるものではなく、人間を「生産性」によって区別することは、憲法13条の「すべて国民は、個人として尊重される」にも抵触するものです。

人間の性的指向は個人を形作るものであり、それは誰に非難されるべきものでもなく、周囲の人間が決めるものでもありません。

性的指向は、善悪や正しい、正しくないなどの判断からは遠く隔たっているものです。これまで沈黙を余儀なくされてきた性的少数者が、偏見から自らを解放する困難な道を歩んでいる今、こういう主張をされていることに激しい怒りとショックを覚えます。

この主張はまた、障がい者や子どもを産みたくても産めない人々の人権をも踏みにじる優生思想に明確につながるものです。たとえ子どもを作ることのできる条件にある者にとっても、その選択はまったく個人の意志に依るものです。「子どもを作らない」ことを「生産性がない」ことに直結させる考え方は、国民を国のための資源とするものです。これは大変危険な発想です。国が国民のためにあるのです。

わたしたちキリスト者は、イエス・キリストがあらゆる人のいのちを愛し、尊厳を大切にされたように、人間の尊厳を踏みにじる行為を見過ごすことはできません。

あなたの主張に強く抗議し、以下の事を求めます。

「子どもを作らないLGBTのカップルは『生産性がない』ので税金を使って支援する必要はない」という主張の撤回を求めます。

あなたの発言によって尊厳が傷つけられた人々に公に謝罪し、議員辞職を求めます。

性的少数者の置かれている状況などを、ひとりの人間として学び、人間の尊厳について考えてください。

2018年8月7日

日本聖公会正義と平和委員会 委員長 主教 上原榮正  
日本聖公会正義と平和委員会 ジェンダープロジェクト代表 篠田 茜  
女性に関する課題の担当者 司祭 大岡左代子、吉谷かおる

内閣総理大臣 安倍晋三 様  
自民党幹事長 二階俊博 様

## 杉田水脈自民党衆議院議員の「LGBTカップルは生産性がない」という主張に強く抗議します

『新潮45』2018年8月号のコラムで杉田水脈議員は「子どもを作らないLGBTのカップルは『生産性がない』ので税金を使って支援する必要はない」という論旨の主張をされました。わたしたちはこの主張によってどれだけの性的少数者が傷つき、苦しんでいるかを思い、断固抗議いたします。

この主張は国民一人ひとりの幸せのために働く公僕たる政治家として到底許されるものではなく、人間を「生産性」によって区別することは、憲法13条の「すべて国民は、個人として尊重される」にも抵触するおこないだと考えます。

人間の性的指向は個人を形作るものであり、それは誰に非難されるものでもなく、周囲の人間が決めるものでもありません。

性的指向は、善悪や正しい、正しくないなどの判断からは遠く隔たっているものです。これまで沈黙を余儀なくされてきた性的少数者が、偏見から自らを解放する困難な道を歩んでいる今、こういう主張を行う政治家がいることに激しい怒りとショックを覚えます。

この主張はまた、身体上の理由や子どもを産みたくても産めない人々の人権をも踏みにじる優生思想に明確につながるものです。たとえ「子どもを作る」ことのできる条件にある者にとっても、その選択はまったく個人の意志に依るものです。「子どもを作らない」ことを「生産性がない」というとき、国民が国のための資源であるという思想が透けており、大変危険な発想であると考えざるを得ません。

わたしたちキリスト者は、イエス・キリストがあらゆる人のいのちを愛し、尊厳を大切にされたように、人間の尊厳を踏みにじる行為を見過ごすことはできません。

杉田水脈議員の主張に強く抗議し、以下の事を求めます。

杉田水脈議員に「子どもを作らないLGBTのカップルは『生産性がない』ので税金を使って支援する必要はない」という主張を撤回・謝罪と辞職を求めます。

杉田水脈議員の発言によって尊厳が傷つけられた人々に対し、政府として、また自由民主党として謝罪を求めます。

性的少数者への差別をなくし、すべての人の平等な権利を守る政治をおこなうために努力することを公に約束し、実行を求めます。

二階幹事長は「多様性を受け入れる社会の実現を図ることが大事で、今後も努力していきたい」と述べておられます。これを実現するために、このたびのような発言がなされないよう、議員の実効ある意識変革を行うことを求めます。

2018年8月7日

日本聖公会正義と平和委員会 委員長 主教 上原榮正  
日本聖公会正義と平和委員会 ジェンダープロジェクト代表 篠田 茜  
女性に関する課題の担当者 司祭 大岡左代子、吉谷かおる

内閣総理大臣 安倍晋三 様  
文部科学大臣 林 芳正 様  
東京医科大学 理事長職務代理 唐沢昌敬 様  
東京医科大学 学長職務代理 宮澤啓介 様

### 東京医科大学の女子受験者を含む入試得点操作に強く抗議します

2018年8月3日新聞各社から、これまでの約10年間、東京医科大学で女子受験者の入試得点が操作され合格者が3割に抑えられていたことが報道されました。

キリスト者としてジェンダー平等社会の実現を求めるわたしたち、日本聖公会正義と平和委員会ジェンダープロジェクトと女性に関する課題の担当者は、このような不正に怒りを覚え、強く抗議します。「女性の医師は結婚や出産などで現場を離れることが多く、系列病院の医師不足を避けるため」という理由が挙げられていますが、いかなる理由があっても性別による差別は許されるものではありません。結婚や出産をしても女性の医師が

働き続けることのできる環境整備が重要なのであり、女性の医師を減らし男性の医師を増やすことで解決を図ろうとするのは、あまりに稚拙だと言わざるをえません。

東京医科大学の得点操作は女性の社会的役割を一方的に切り捨て限定することで男性の優位を図ろうとするものです。これは女性から教育機会を奪い専門職としての就労から遠ざけようとする差別的で不当な行為です。このような女性や少女の人権を踏みにじる行為を断じて許すことはできません。

また、すべてのいのちを分け隔てなく尊重しなければならない医療者の養成機関である貴学において、そのスタートから本人に何ら責任のない「性別」という属性によって差別されたことは、神から与えられたすべてのいのちを尊重するキリスト者の立場からも決して容認できるものではありません。

すでに調査委員会の報告がなされ、その事実関係が公になっていますが、わたしたちはこれらの不正に対して強く抗議するとともに、以下のことを要望します。

- ① 今回明るみになった得点操作によって不利益を被った受験者に対して謝罪し、必要な措置を講じることを求めます。
- ② すべての教育機関の入学試験が性別や浪人の回数などで差別されていないか、平等で公正な判定が行われているかを調査し、不公正がある場合は徹底して是正することを求めます。
- ③ 政治、経済、教育などあらゆる分野で、男女が平等に参画できるよう法を整備することを求めます。ことに教育現場において、性差に基づく偏見の解消に努め、ジェンダー平等社会を実現するための教育を徹底することを強く要望します。

2018年8月20日

日本聖公会正義と平和委員会 委員長 主教 上原榮正  
日本聖公会正義と平和委員会 ジェンダープロジェクト代表 篠田 茜  
女性に関する課題の担当者 司祭 大岡左代子、吉谷かおる

## 聖公会手帳 2019 11月に発行！

★日本聖公会管区事務所による責任編集・正確な内容！！

☆2019年の教会暦・日課表を完全収録！！

★日本聖公会の教会・伝道所、関係諸施設の情報！！

☆紙質を軽量化して、さらなる機能性と使いやすさを追求！！

★大型判・税込2,200円／通常判・税込1,200円

■ご予約は、聖公書店（Tel 04-2900-2771）または、お近くの書店まで

